

みんなにやさしいまちに
～モデル地区推進部会活動報告書～
〈平成26年度〉



平成27年3月

さいたま市福祉のまちづくり推進協議会
モデル地区推進部会

<目 次>

I. 福祉のまちづくりモデル地区推進事業	1
II. 大宮北小学校での具体的活動内容	3
III. 参加者の声から	
平成26年11月28日 ふれあい学習時 参加者アンケート	8
平成26年12月 9日 まち歩き学習時 参加者アンケート	10
大宮北小学校5年生 まとめ	12
大宮北小学校先生 まとめ	13

I. 福祉のまちづくりモデル地区推進事業

1. 目的

- この事業は、平成16年3月に制定した「だれもが住みよい福祉のまちづくり条例」に掲げる目的である「だれもが心豊かに暮らすことのできるユニバーサルデザインの都市の実現」のため、総合的かつ計画的に推進するための基本となる「福祉のまちづくり推進指針」を策定し、目的を達成するための一つの方策として、モデル地区を設定し、ハードとソフトが一体となった総合的な福祉のまちづくり活動を行うものです。

2. 対象地区

- 平成18年度から平成21年度までについては、本市の交通バリアフリー基本構想の重点整備地区に指定されている浦和駅周辺地区・北浦和駅周辺地区・大宮駅周辺地区での活動を優先的に取り組んできました。

- 浦和駅西口地区：高砂小（平成18年度）
- 浦和駅東口地区：仲本小（平成19年度）
- 大宮駅東口地区：大宮小（平成20年度）
- 大宮駅西口地区：桜木小（平成21年度）

なお、平成22年度に福祉のまちづくり推進指針を改訂し、平成22年度から平成26年度（第2期）の期間については、モデル地区事業の対象を、交通バリアフリー基本構想にとらわれることなく柔軟に対応することとしました。

- さいたま新都心周辺：下落合小（平成23年度）
- 南浦和駅東口地区：大谷場中（平成24年度）
- 岩槻駅東口地区：岩槻中（平成25年度）
- 大宮駅東口地区：大宮北小（平成26年度）

3. 活動イメージ

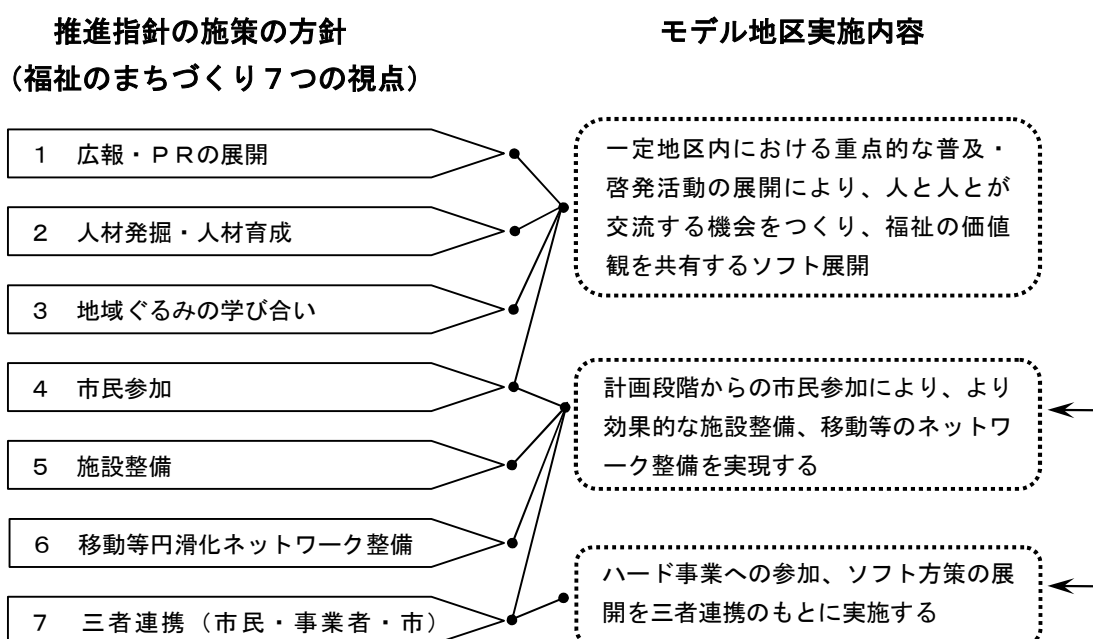
- 「広報・PR」、「人材の育成」、「学び合い」、「施設整備への市民参加」などをキーワードに、児童や保護者、地域の方々とともに、バリアフリー体験学習、まち歩きによる点検、学び合いなどを行います。
なお、小・中学校でのバリアフリー体験学習は、各学校のスケジュールやカリキュラム等と連携して行っています。

4. 組織

- 「モデル地区推進部会」は、「さいたま市福祉のまちづくり推進協議会」の中に設置された部会で、NPO、福祉関係団体、交通事業者、自治会関係、教育関係、行政職員によって組織され、モデル地区事業を推進しています。

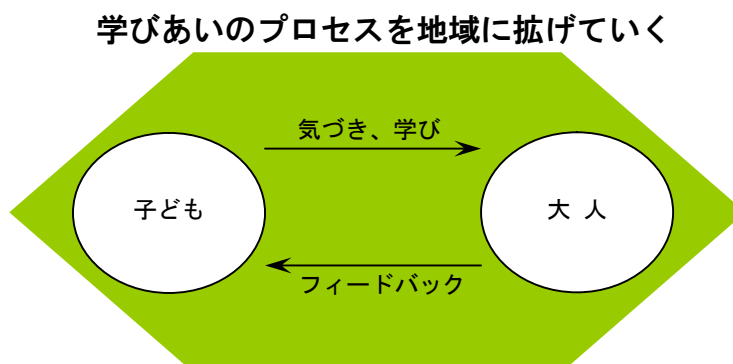
5 モデル地区の事業展開

- 地区内の学校と協力した福祉教育の展開・調査やマップづくり・イベントと連携したPR・施設整備への意見といった活動を、次の「福祉のまちづくり7つの視点」に基づいて進めています。



6 学び合いのイメージ

- 子どもたちに福祉のまちづくりを伝えて気づきを促し、その豊かな感性から生まれるアイデアを大人たちに伝え、再び大人たちからのフィードバックを受け取るという学び合いのプロセスを実現し、一定期間継続することで、地域に広がっていく活動を想定しています。



Ⅱ. 具体的活動内容

モデル地区事業は、学校の総合的な学習の時間を利用して、モデル地区推進部会委員をはじめ、障害のある方や市福祉関係団体等の協力を得て、福祉のまちづくりとともに学びあえる機会をつくり、地域に暮らす父兄や住民等に参加を呼びかけ、実施しています。

学校では、障害のある方や高齢者、妊産婦経験者等の方々からの聞き取り学習や、アイマスクや車いすを使用しての各種体験学習、まち歩き学習、学習発表会など多様で総合的な学び合いのなかで、「心のバリアフリー」に取り組んでいます。

大宮北小学校での取組について

大宮北小学校では、5年生（2クラス：45名）を対象に実施しました。

(1) 取組の概要

【参加者】

さいたま市福祉まちづくり推進協議会委員の他、視覚・聴覚・知的の各障害者団体から選出された方、NPO団体、地区社会福祉協議会、社会福祉協議会、社会福祉事業団、（約50名）が参加しました。



【みんなにやさしいまちに】



障害のある方について知り、共に理解しあい、助け合って生きていくことの大切さに気づき、自分の生き方や生活にいかしていく。

過程	ねらい	子ども達の活動
ふれる	障害のある方やバリアフリー、ユニバーサルデザインなどについて知り、これからの学習意欲をもつ。	<ul style="list-style-type: none">・障害のある方と直接ふれあうことにより、バリアフリーについて知り、車いす、アイマスク、白杖などの歩行体験を行う。・ユニバーサルデザインについて知る。
つかむ	「ふれる」場での活動を通じて、自分なりの課題をつかむ。	<ul style="list-style-type: none">・自分なりの思いや願い、具体的な活動につながる課題を考える。・課題に合わせてグループを作り、活動計画を立てる。

追 求 す る	自分の知りたいことを追求する。	・ユニバーサルデザインやバリアフリーの視点で身近な地域の見学や歩行体験をして、課題を追及する。
ま と め	自分に出来ることや、もっと住みやすいまちにするための改善策を提案する。	・今まで追及したことをもとに、自分に出来ることや、もっと住みやすいまちにするための改善策を提案しまとめる。 ・発表会を行い、自分達が学習してきたことや住みやすいまちづくりのための提案を伝え合う。 ・自分の生活に生かす。

(2) ふれあい学習

日 程	内 容	場 所
11 / 28	<p>☆ふれあい学習</p> <p>まち歩きの前に、障害のある方から話を伺ったり、学校内で疑似体験を行ったりした。</p> <p>【ねらい】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・障害のある方々とのふれあいを通して、自分と異なる感覚や暮らしの方法があると理解するとともに、お互いを正しく理解し、共に助け合い支え合って生きていくことの大切さを気付く。 	小学校体育館など
	 	

	<p>☆疑似体験</p> <ul style="list-style-type: none"> ・車いす、電動車いす、アイマスク、白杖の使用 方法と介助方法を学び、次回のまち歩き学習に 生かした。 <p>【ねらい】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・疑似体験により、暮らしの中で何がバリアにな っているのかを知ることができる。 	
		

(3) まち歩き

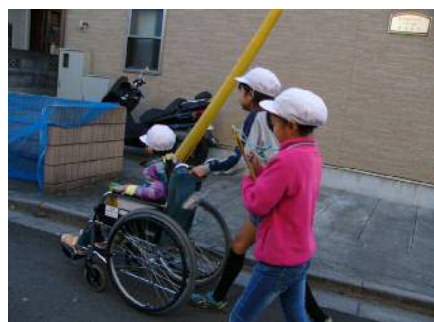
日 程	内 容
12/9	<p>☆まち歩き学習</p> <p>グループに分かれて、子ども、視覚・聴覚・肢体・知的の障害当事者の方々や、地区社会福祉協議会、NPO団体の方々、モデル地区部会委員、社会福祉協議会職員、社会福祉事業団職員と共に歩き、大宮北小学校周辺のまちについて、何に不便を感じるのか、どんなところがバリアフリーになっているのかチェックをした。</p> <p>【ねらい】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実際にまちを歩くことで、自分たちのまちのバリアやバリアフリーについて理解できる。 ・一人ひとりの能力がハンデの原因ではなく、環境（バリア）が、ハンデを生むことに気づくことができる。

◎まち歩きコース

①氷川参道方面（視覚）




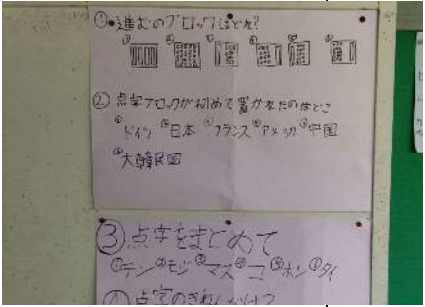


②大宮税務署方面（聴覚）（車いす）

③大宮税務署方面（知的）（車いす）



2クラスを6グループに分けて、障害のある方々と約1時間をかけて歩いた。その中で、まちを歩く上での不便さを質問したり、疑似体験グッズを使用したりすることで、実際にまちの中の便利さ・不便さを自ら体験する。

(4) 児童のまとめ

日程	内 容	場 所
3学期	<p>〈まとめる〉</p> <p>児童たちは今回の体験をもとに「心のバリアフリー」に対する理解を深め、3学期の授業において、自分なりの意見等をまとめ、在校生に伝えるため校内の廊下にて作品を展示した。</p>	校内
		
		
		

参加者の声 ～みんなにやさしいまちに～

平成26年11月28日 ふれあい学習時 参加者アンケート（抜粋）

I 【問】 今回の授業（ふれあい学習）に参加してのご感想をお聞かせください

- 1 障害を持つ子供を育ててこられた方の生の声を聞かせていただいた。個人的には子育て中にこそ、こんな場がほしかったなと感じました。児童は一人ひとりが感想、質問をはっきりと自分の言葉で話していて、とても素晴らしい。【地区社会福祉協議会】
- 2 障害のある方とのふれあいは、大変貴重なものに思えました。このような企画を是非進めてください。【地区社会福祉協議会】
- 3 たいへん意味のある授業だったと思います。実際のふれあいの中で、障害者もそうでない人も同じことが分かったと思います。【地区社会福祉協議会】
- 4 内容も幅広く、講師の方々も親しみやすく子供たちに接して下さり、とてもよかったです。実際に体験することで、理解も深まったと感じます。【部会委員】
- 5 知的障害のグループと視覚障害のグループに参加させていただきましたが、知的障害を持つご家族と接したのは初めての経験で、参加した小学生だけでなく、私にとっても貴重な体験でした。障害者はハンディキャップは持つものの特殊な人ではありません。そのことを参加者は実感したのではないのでしょうか。このような機会が小学校で学ぶ6年間のうちの数時間だけではなく、より多くの時間で学習できれば、障害者に対する目も当然変わってくると考えます。【協議会委員】
- 6 今回で3回目の参加で、小学生は初めてだったのですが、児童さんたちの反応も良く、楽しくやらせていただきました。【NPO団体】

II 【問】 児童の気づきや言葉で印象に残っていることがありましたらお聞かせ下さい

- 1 「障害はいつ治るの?」「知的障害はいつ分かるの?」、「声を掛けてあげた方がいいんだ」、「今度見かけたら声かけしよう」など、素直な疑問や感想に、今後がとても期待される思いでした。【地区社会福祉協議会】
- 2 白杖体験では障害のある方の日頃の大変さがよくわかり、体験することで距離が縮まったように思えます。【地区社会福祉協議会】
- 3 知的障害のグループに参加しましたが、児童たちが懸命に障害のことを理解しようとする素直な姿勢に感動しました。障害について理解を深めたと思います。【部会委員】
- 4 「知的障害の場合、足の不自由な人は車椅子があるが、何か道具はありますか?」、「知的障害は治りますか?」という質問。児童たちは、自分たちの支えの気持ちが大切だと感想を述べていた。【部会委員】
- 5 講師の方々が熱心に話し、説明して下さったので、非常に強い関心、興味を持って取り組んでいる様子でした。【部会委員】
- 6 参加した児童は真摯な態度で障害者のご家族や障害者の方の話に耳を傾け、好感が持てました。質問も、大人の感覚からは少し物足りないと感じるようなこともありましたが、概して「素直な」質問であったと思います。障害者に対する素直な感想を持ち続けてほしいと感じました。【協議会委員】
- 7 自由な発想がすごく印象に残っています。例えば「崖を車椅子で走る時はどうするんですか?」など、こちらもワクワクする体験でした。【NPO団体】

Ⅲ 【問】 次年に向けての問題や課題、改善した方がいいと思っただけがありましたら、お聞かせください

- 1 児童の少ない地域の小規模校で、支援学級・学校・施設も無い地区でもあるので、児童だけではなく、保護者の方の参加があった方が良かったのではないのでしょうか。小さな頃から常に接する機会があれば、大人になっても自然と手を差し出せる、思いやりが出来るのではと感じました。【地区社会福祉協議会】
- 2 様々な障害のある方の接し方などをトータルで学ぶ機会なのかもしれませんが、各分野をもう少し掘り下げて、時間をとって学ぶ方法も必要かと思いました。【地区社会福祉協議会】
- 3 もう少し時間がほしい。声をかける大切さは理解できたと思う。声のかけ方を実際にやったらよいと思う。【部会委員】
- 4 参加人数に限りがあるのでこうした貴重な体験を子供たちから他の児童に伝える機会を増やし、「思いやりの輪」を広げていくことにつなげていってはいかがでしょうか。【部会委員】
- 5 このプログラムに関してというより、福祉に対する教育という観点からの色合いが強いかもかもしれませんが、次の3つの印象を持ちました。①時間的にやや短いと感じました。②イベント的な《しつらえ》ではなく、通常の授業の一環としての学習として実施。③できれば、同年代の障害者と対等な関係（数人の障害者を招いての学習ではなく、人数的、状況的にも対等）での体験や意見交換を含めた学習の実施。【協議会委員】
- 6 全児童さんに全グループの体験をしていただくには時間が少なかったです。【NPO団体】

平成26年12月9日 まち歩き学習時 参加者アンケート（抜粋）

I 【問】 今回の授業（まち歩き）に参加してのご感想をお聞かせください

- 1 車椅子での目線では、信号機、道路標識等が見づらい位置にあったり、また、通行の妨げにもなっていました。道路の舗装も車道はとてもきれいですが、歩道はかなり傷んでおりました。障害のある方が一人で行動するのはもちろん、介助の方がいても外出はかなり難しい現実がありました。とても良い体験をさせていただきました。【地区社会福祉協議会】
- 2 車椅子で実際に道路を歩いてみると、歩道上にたてられている「カーブミラー」、「標識」がとても気になりました。また、車椅子での移動には、ほんの僅かな段差やくぼみが妨げになるということを実感しました。今の現状では障害者にとっては厳しいと思います。貴重な体験ができました。【地区社会福祉協議会】
- 3 聴覚障害者の方、車椅子の方と一緒にまち歩きを体験しましたが、道路の車の多いところで障害のある方は、想像以上に大変だとわかりました。この方々のため、少しでも役立つことがあればと思います。【地区社会福祉協議会】
- 4 先生、児童たちの取り組み姿勢が良かった。【障害者団体】
- 5 今回、初めてこの事業に参加し小学生と一緒に歩いたが、もう少し声を出して欲しかった。【障害者団体】
- 6 児童たちの新鮮な反応、驚きがよかった。サポートしていただいた方々が気持ちよく対応されていた。【部会委員】
- 7 障害のある方や、ご高齢の方にとっては危険だったり大変だったりする所が多くあることがわかり、大変勉強になりました。【部会委員】
- 8 まち歩き学習のねらいは大きく2つあると思う。すなわち、①障害者（例えば視覚障害）の疑似体験により障害者を思いやる心を醸成すること、②福祉のまちづくりに対する関心を持たせること。①の目的はほぼ達成できたと感じるが、②に対しては体験学習後のグループミーティングをするなど、もう少し授業の内容を工夫する必要があると思う。1グループの中で役割をローテーションし、すべての役割を皆が体験できたことは良かった。【協議会委員】
- 9 道の狭さ、交通量の多さで十分な体験となったかいささか心配であります。しかし、車椅子体験を通して障害者に対しての理解が進んでくれればと思いました。【NPO団体】

II 【問】 児童の気づきや言葉で印象に残っているものがありましたらお聞かせください

- 1 「耳が聞こえない場合、目覚ましはどうするの?」、「聞こえない人は、見た目でわからないね」、「手伝ってあげたい」、「道が狭くて車にひかれそう」、「車椅子はもっと便利だと思った」、「道の端がななめで車椅子が傾く」。【地区社会福祉協議会】
- 2 「体育館で車椅子の体験をしたときはとても便利で快適な道具だと思った。でも道路での体験では、あまり良い物ではなく、使えないと思った」（男子児童の発言）。【地区社会福祉協議会】
- 3 一生懸命、車椅子を押したり体験したりで良い勉強になったと思う。良い子達だと感心しました。【地区社会福祉協議会】
- 4 「一番困ったことは何ですか?」と聞いてきた児童の配慮がうれしかった。自分たちで取り組もうとしていることが感じられた。【障害者団体】
- 5 初めてやることだから、児童も緊張していたと思う。もう少し児童と交流できる時間があればよかった。【障害者団体】
- 6 視覚障害者のまち歩きに参加した。少し遊びの雰囲気もあったが、全体としてはきちんとできていた。【部会委員】
- 7 寒い中、熱心に取り組んでくれて良かったです。【部会委員】
- 8 児童が全体的に真摯な態度で「まち歩き学習」に臨んでいたことは、好感が持てた。講師のレクチャーに対しても、真剣に対応していたことも良い印象を持った。【協議会委員】

- 9 最後の発表の時、班長さんが素晴らしい発言をしていました。「障害の理解」という狙い通りの理解をしてくれて、感心いたしました。【NPO団体】

Ⅲ 【問】 次年度に向けての問題や課題、改善した方がいいと思ったことがありましたら、お聞かせください

- 1 外に出る時間が時期的に寒く、子供達は上着も用意しておらず、障害の車椅子の方は、車椅子操作の感覚が鈍るため、手袋を着用できないということでしたので、かなり体調が悪そうになっておられました。また、一般の方にも体験学習中であるとわかるように、旗などでもっとアピールできれば良かったのではないのでしょうか。【地区社会福祉協議会】
- 2 時期など問題、課題がある。もう少し早い時期に。【障害者団体】
- 3 学校の中と外では違うので、一回の体験では難しいと思う。もう少し体験の日数を増やして、外を歩くとき、周りにお店があるなど、教えてもらいながら歩けるくらいになると良いと思う。【障害者団体】
- 4 同行していただいた障害者の方々とのまち歩き、途中でのやりとりが共有していないと感じた。障害者の方と同伴の方も、児童たちと組ませたらどうだろうか。【部会委員】
- 5 子供達が人を思いやる気持ちの輪を広げていってくれればと願っています。次年度も同じように実施することによいと思います。時期をずらし、気候の良い月に行うのも一案かと考えます。【部会委員】
- 6 「介助者の指示が明確でない」、「インタビュアーや記録・聞き取り系の活動が、やや不活発」などの問題点が見受けられた。それぞれの係の役割を明確にし、事業の密度を高める工夫が必要。「まち歩き体験」の後に、グループミーティングの時間を設けたい。体験学習は、体験するだけではなく、直後にその体験を心の中で整理する時間が必要であると思う。お互いの体験の意見交換から学習効果がより高まると期待される。【協議会委員】
- 7 もう少し暖かい時期に、まち歩き体験をしていただけるとありがたいです。【NPO団体】

大宮北小学校5年生 まとめ（抜粋）

・障害者の方のお話や疑似体験を通してわかったことや感じたこと

- 1 知的障害の人と仲良くしたいと思いました。
- 2 障害者の方は普通の生活ができるので、かわいそうではないと思いました。車椅子でサッカーをされていてすごいと思いました。
- 3 知的障害の人が、ものすごく頑張って覚えようとしていることがわかった。
- 4 今まであまり知らないことがたくさんあったので、聞けてよかったです。
- 5 手話がわかってうれしいです。今日、覚えたことをみんなとやります。
- 6 私たちでできること、協力できることは、なるべく実行したい。
- 7 知的障害のことを聞いて、治ることのない障害ということを知って、今後もやさしくふれあっていきたいと思います。

・まち歩きをして気付いたことや考えたこと

- 1 足が不自由な人や耳の聞こえない人の苦勞もわかったし、車椅子は難しいとわかった。
- 2 点字ブロックが壊れていたので、こわかった。
- 3 車椅子が難しくていろいろぶつかった。ちょっとした段差でも、力を入れないといけないから難しかった。
- 4 前に校内を歩いて体験した時は、杖がすべったけど、まち歩きでは石で杖がすべらなくてたいへんでした。あと、細かい指示がないと少しの段差でも転びそうになって危なかったです。ヘルパーの方をやったときは、どのくらい細かく指示をすればいいかがわからなくて困りました。
- 5 車椅子を押す時は手動だったので重くて、段差の時は上げるのがたいへんでした。乗った時は段差のところがすごくこわくて不便だなと思いました。
- 6 前回やったのとは全くちがいで、とてもこわかったです。白杖がすべらないし、点字ブロックにつかえるしと、たいへんでした。風が強かったので音もよく聞こえませんでした。でも、音の出る信号や、ガイドさんがついてくれたおかげで何とかゴールできました。とても勉強になり、いい体験でした。

・障害者の方との交流を通じて感じたことや考えたこと、感想

- 1 町で見かけたら声を掛けるとか、助けてあげたいなと思います。
- 2 自転車の放置を自分でも気を付けたい。声を掛けてあげたい。
- 3 道に自転車を置くことなど、自分が迷惑だと思ったことをなくし、障害者でも安心して暮らせる町を目指したい。
- 4 障害のある方に自分から話しかけることとか、あたたかい目で見守ることも忘れずに生活していきたいです。
- 5 歩道が広く使えるように、自転車や物を置かないようにしたいです。前に誰かと散歩していたときに、その誰かが信号無視して渡っていて、一人じゃいやだなと渡ってしまったので、これからはちゃんと信号を渡ります。
- 6 これからの生活の中で、いろいろな障害者が町や道を歩きやすいように、障害を持っている人でも楽しく暮らせる町になってもらいたいと思い、自分が障害者のことを助けたり、一人ひとりが助け合うことが大切だと思いました。
- 7 同じマンションに知的障害の人がいるので、気を配ってやさしくしてあげたいと思います。

大宮北小学校先生 まとめ

・障害者の方のお話や疑似体験を通してわかったことや感じたこと

- 1 それぞれの体験場所で、子ども達の興味関心が高まる工夫や、熱心なお話をしていただき、子ども達にとってとても有意義な時間でした。時間があれば他の方々のお話も伺いたいと思いました。福祉についての関心が高まりました。
- 2 子ども達は、物音もたてずに話をよく聞いていました。車椅子体験も楽しんでしまうかと心配しましたが、段差の怖さなど、しっかり感じていたようです。
- 3 実際に触れ合い、生の声を聞くことの大切さを実感しました。特に知的障害の親の会の方々のお話は、なかなか聞く機会がないので、とても貴重な学びとなりました。

・まち歩きをして気付いたことや考えたこと

- 1 多くの方々に見守っていただいて体験できましたこと、大変感謝しております。一人ひとりが十分な体験ができました。体験、補助、インタビューなど、役割を作ってできたことも良かったです。子ども達が体や心で感じることでできた貴重な時間でした。
- 2 見えない状態で歩くというのはかなり怖いと思いますが、みんなでやっている、補助がある、実際に白杖を使っている方と一緒に歩いているなど、信頼して歩いていたと思います。
- 3 車椅子体験は街中で実施されたので、周りの環境や歩道の状況など、普段気付かないところに目が行き、より一層、障害への理解を深められたと思う。

・先生が感じたことを、これからの学校教育の中でどのように生かしていくか

- 1 自分中心の考えで言動するのではなく、相手のことを考え、思いやることの大切さを学んだと思うので、日々の学級指導や行事の中で生かしていけるようにしたいと思います。相手を大切にすること、思いやることは、学校教育すべての活動で生かせると思います。
- 2 生の声や、実際のデータ等にふれる機会を作っていきたいです。
- 3 疑似体験等であっても、理解を深めるには大変有効であると考えてるので、授業の中に出来る限り入れていきたい。
- 4 「やってあげる」、「かわいそう」という気持ちではなく、一対一の人として向き合い、関わり合える子どもを育てていくことが大切だと感じました。

発行

〒330-9588

さいたま市浦和区常盤6-4-4

さいたま市保健福祉局福祉部福祉総務課

電話 048-829-1254

FAX 048-829-1961